



公益社団法人 日本環境教育フォーラム

# 活動報告書 2022

人を育てる、未来を変える。



公益社団法人 日本環境教育フォーラム

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 1 階

TEL : 03-5834-2897 / E-mail : info@jeef.or.jp

<https://www.jeef.or.jp/>



<Web> <Facebook> <Twitter>

デザイン・東村ほのか



# 人を育てる、未来を変える。

かけがえのないこの地球で  
今を生きる私たちが、これからを担う次の世代が  
心豊かに笑顔で暮らしていくように。

JEEFは“体験”と“対話”を重視した環境教育を続けてきました。

自然学校、NPO/NGO、教育機関、企業、行政、  
たくさんのステークホルダーと関わり創ってきた、これまでの30年。  
さらにたくさんの方と関わりながらつなげていく、からの30年。

答えのない世の中だからこそ  
未知の状況に臆することなく  
好奇心をもって手を伸ばせる人材を育てたい。

JEEFは2022年に30周年を迎えました。  
これからも持続可能な未来に向かって  
みなさんと一緒に新しい一步を踏み出します。



# ご挨拶

日本環境教育フォーラム(JEEF)へのご支援・ご協力をいただきありがとうございます。  
JEEFの2021年度の活動をとりまとめた報告書をお届けいたします。  
ぜひご一読いただき、JEEFへのご理解をさらに深めていただければ幸いです。

## 理事長挨拶

JEEFの原点である1987年の清里環境教育フォーラムに参加し、実行委員になって以来、任意団体、法人で理事・常務理事・専務理事として活動してきました。国連人間環境会議から50年の節目に理事長の重責を担うことになり気が引きしまる思いです。環境教育の当面の目標であるSDGsは40年以上かけてようやく実現した同会議で出された国連人間環境宣言の具体化ともいえます。この機に改めて環境教育の果たすべき役割を問い合わせ直し、持続可能な社会の実現に貢献する所存です。

皆様のご支援を心からお願い申し上げます。

(2022年6月24日)



理事長 阿部 治

## 活動報告

コロナ禍2年目の2021年度、前年に引き続き殆どの対面イベントは中止、あるいはオンラインへの切り替えで実施されました。JEEF設立のきっかけとなった清里ミーティング(1987年当初は清里環境教育フォーラム)もオンライン開催2年目を迎え、前年よりも多くの方々にご参加いただきました。2021年度は新しい試みとして「環境教育ラジオ／自主事業」「環境教育との連携による狩猟・ジビエ普及推進事業／大日本猟友会との連携」の他、新たな企業との協働事業もいくつか始めることができました。また、日本環境教育学会と共同して「自然学校連続講座」も開催することが出来ました。「科学と数学の偉大な冒険:GEMS」事業も設立20年を迎え、多方面から注目をいただ

く1年となりました。特にオンラインでの様々な体験プログラムのチャレンジが少しずつ実を結びつつあります。

2022年はJEEFが任意団体の会員組織としてスタートした1992年から数えて30年です。当時は「環境教育」という言葉はまだ耳新しいものでした。それから30年が経ち、環境教育という言葉の鮮度は落ちてしまったのでしょうか？いえ、SDGs達成目標の2030年もあと8年と迫っているこの時だからこそ、環境教育による私達自身の意識変容が求められているのだと思っているのですが、いかがでしょう？

今年もJEEFの新たな挑戦にご注目下さい。

川嶋 直(前理事長)

# VISION —実現したい社会

かけがえのないこの地球で、次の世代も心豊かに、  
笑顔でくらしていくよう

持続可能な社会の実現を目指します

# MISSION —わたしたちが取り組むこと

## 1. 体験と対話を重視した環境教育

地球環境をはじめ、複雑に絡み合う様々な問題の解決に向けて、表面的な知識を与えるのではなく、「体験と対話を重視した環境教育」によって「自ら課題を見つけ、学び考えて行動できる人材」を育成します。

## 2. 多様なパートナーとの協働による環境教育

社会構造の複雑化・多様化が進む中で、環境教育において単独の企業や団体の取り組みだけでは限界が見られます。私たちは、自然学校、NPO/NGO、教育機関、企業、行政 等との協働によって、社会を取り巻くさまざまな課題に向き合い、インパクトを創出します。

## 事業紹介

私たちは、環境教育による人材育成を通じて、複雑に絡み合う様々な社会課題の解決と SDGs の達成に向けて力を尽くしていきます。

### JEEF が取り組む 5 つの柱

1

#### 持続可能な社会をつくる 人材の育成

「自ら課題を見つけ、学び、考えて行動できる人」を育てるため、ファシリテーター / インタープリターが学びの案内人として参加者の対話を促し、学びを深め、心が動くような環境教育を実施しています。

2

#### ファシリテーター・ インターペリターなどの 指導者養成

体験的・対話的な学びのつくり手としてスキルアップしたい方に向け、環境教育の全国大会「清里ミーティング」の開催や、「えんたくん」(対話促進ツール)、GEMS を活用した学びの場づくりのトレーニングを提供しています。

### 体験と 対話の環境教育

JEEF の事業は 主に 3 つの分野で展開しています

国内  
事業

海外  
事業

GEMS

3

#### 科学と数学の 探求学習プログラム GEMS の普及

GEMS (ジェムズ) はカリフォルニア大学で研究開発された、科学と数学の探求学習プログラムです。JEEF は日本でのライセンスを取得し、複雑な社会課題の解決に必要な「自立した思考力」を育てるべく普及・指導者養成に努めています。

4

#### 日本・世界のパートナーとの ネットワーク構築

日本各地の自然学校や環境教育施設、学校、行政、企業、学生など多様な分野の会員・専門家のネットワークを活かして、日本国内およびインドネシア、バングラデシュなど海外で環境教育の普及・支援事業を展開しています。

5

#### 最新の環境教育の 情報発信

機関誌「地球のこども」(年 2 回発行)、会員向けメルマガ、会員限定ホームページなどを通して、環境に関する最新の動向や先進的な企業取り組み、環境分野で活躍されている方々のエッセイなど幅広く環境教育情報を発信しています。

# ハイライト

新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、企業や団体、行政等との協働により未来を見据えた多くの新しい事業が始まりました。

01

## 『100年後に生きる子ども達に感謝される森づくり』を開始！

■メットライフ生命、メットライフ財団

(写真) 社員ボランティアの皆さんと、ヤマザクラやシバゲリなどを植樹しています。



メットライフ生命創立50周年記念事業の一環として、健全な森林育成を通じた環境保護活動を目的に「100年後に生きる子ども達に感謝される森づくり」を開始。フィールドはNPO法人しんりんが管理するエコラの森(宮城県大崎市)です。エコラの森は乱伐され荒廃した森林で、NPO法人しんりんが森の再生活動に取り組んでいます。2022年3月に除幕式を開催し、メットライフ生命の社員ボランティアを中心に植樹や下草刈りなどの活動を進めています。同時に、エコラの森から出た建築端材を活用したお箸を子ども達に届ける「つなぐ！お箸プロ

ジェクト」も始まっています。昨年は社員ボランティア1,000名が箸1,000膳を製作しました。これらの箸は、おもに宮城・東京・長崎の児童養護施設の子どもたちに寄贈しています。その他、シニアや子ども向けの自然体験活動、講座などを実施していく予定です。シニアに向けては健康的なQOL(Quality of Life)の追求、子どもたちには自然との触れ合いによる環境意識の向上や行動変容を目指していきます。これらの活動を通じて、気候変動や生物多様性の喪失などの環境問題解決に貢献し、豊かな自然環境を未来の子ども達に引き継いでいきます。

02

## 毎週金曜日に更新！環境教育ラジオ『私の本棚』

■日能研、ちえの木の実

環境教育実践者や研究者をゲストにお迎えし、活動、研究、そして人生に影響を与えた一冊をご紹介いただく音声配信を2021年9月に開始。複数のポッドキャストアプリ、あるいはJEEFウェブサイトから直接聞くことができます。番組を通して環境教育への理解を深め、日本の環境教育に影響を与えた書籍を次世代に対して引き継いでいく他、書籍を通じてゲストのライフヒストリーを紐解いていくことを狙いとしています。



03

## 狩猟・ジビエの普及推進事業をスタート！

■大日本猟友会



従来の自然体験活動に「狩猟＆ジビエ」というテーマを取り込み、自然体験プログラムとして普及・推進を図っていきます。2021年度は小学生以上の親子を対象に1泊2日、定員20名のモニターツアーを実施し、その結果を反映して、今後は自然学校でプログラムを企画・実施していくような手引き書を作成します。自然学校スタッフや有識者の協力のもと、狩猟が必要になった背景から動物をめぐる多様な価値観、考え方等について幅広く意見交換をし、学び合いながら進めていきます。

04

## おうちで体験的に環境を学ぶ！

■サニクリーンアカデミー

おそうじ用具のレンタルなどを行う企業との協働で、オンラインの親子環境ワークショップを開催しました。身近なものを使って探究をつくるというGEMSのアプローチを使い、前半は段ボールコンポストを通してごみの分解や循環について学ぶプログラム、後半は科学の視点からお片付けや食器洗いについて考えるプログラムを実施。日常へつながりやすいというオンラインのメリットを活かした「おうち環境教育プログラム」ができました。



# 国内事業

多様なパートナーと共に、「自然から学ぶ環境教育／体験から学ぶ環境教育」を推進しています。

## 通算35回目の清里ミーティング

### ■自主事業

持続可能な社会に貢献する「ひとづくり」に携わる人たちの学び合いの場。2021年度もオンラインで開催し、自然学校や環境教育施設等をつなぎ、そして世界をつないで、342名の参加者とともに環境問題や社会課題の解決へのヒントを探る議論を深めていきました。



## 市民向け環境講座をオンライン開催！ 5,756名が参加



### ■損害保険ジャパン、SOMPO 環境財団 『市民のための環境公開講座』

市民の皆さんと共にSDGsや地球上の諸問題を理解し、それぞれの立場でサステナブルな未来に向けて具体的に行動することを目指した講座です。1993年の開始から延べ約3万人が受講。通常講座9回と特別講座1回の計10回開催し、特別講座ではNPO法人森は海の恋人・畠山信氏を講師に、宮城県気仙沼市と中継で結びながら講師と参加者の双方のコミュニケーションを重視した講座を提供しました。

## 応募作品891点！子どもたちの発見がつまつた絵と作文のコンクール



### ■富士フィルム・グリーンファンド

#### 『わたしの自然観察路コンクール』

道を歩いていて、生きものや植物を見たときに「ふしぎだな」「おもしろいな」と感じたことはありませんか？子どもたちの視点で自然のおもしろさを発見し、絵地図と作文で表現することによって、身近な自然への理解や愛着を深めてもらうことを目指しています。2021年度は、過去38年で2番目に多い応募作品数となりました！

## 人・森・産業のつながりを楽しく学ぶ！



### ■王子ホールディングス『王子の森・自然学校』

オンラインワークショップを4回開催。全国から小学4～6年生、計95名が参加しました。身の回りにある紙が木材と古紙からできていることや、「森のリサイクル」と「紙のリサイクル」の仕組みをクイズや映像を使って、アクティブに学びました。

## 全国の学校教職員320名が受講！



### ■環境省

#### 『教職員等環境教育・学習推進リーダー養成研修事業』

学校や地域で質の高い環境教育・ESDを実践、推進するリーダー人材を育成することを目的とした研修事業。カリキュラム・デザイン・コースでは、総合的な学習(探究)の時間と各教科を関連づけた環境教育・ESDの指導計画表(所謂、ESDカレンダー)の作成ノウハウを習得し、カリキュラムマネジメントの実践力を磨きました。また、プログラム・デザイン・コースでは体験活動を取り入れた環境教育プログラムの企画・実践力向上を目指しました。

## 森里川海大好き！

### ■環境省

#### 『森里川海の恵みを次世代につなげるプログラム実施業務』

森里川海の自然をテーマにしたオンラインプログラムを2回実施。各回全国から約20組の親子が参加しました。現地レンジャーによる国立公園の魅力紹介や児童文学作家・阿部夏丸氏による川の生きもの紹介、アリ探求家・島田拓氏によるアリの生態を紹介する動画上映と講演、養老孟司氏の人と自然の関わりについての講演、参加者が調べたり飼育している生き物の紹介など、地域や世代を超えて生物多様性や森里川海のつながりの大切さについて学びました。



## おやこ de 里山・里海たいけん in 南房総



### ■環境省

#### 『海と森のつながりを学ぶ親子向けツアー』

大房岬自然公園を楽しく回りながら、現地レンジャーから海と森を行き来する生きものがいることや、台風の被害を受けて森が弱っていることなどを学びました。また、森のガイドツアー、浜辺のビーチコーミング、生きものたちの落とし物でおみやげ作りなど、各種プログラムをセルフガイドで実施できるように『南房総キッズレンジャーガイド』を開発し、大房岬自然公園等で販売しています。

# 海外事業

環境保全や環境教育だけでなく、地域住民の生活・生計の向上も踏まえた事業展開を実施しています。

## バングラデシュにおける地域住民の生計向上と地域の活性化



### ■外務省『バングラデシュ・シュンドルボンにおける農畜林水産部門の6次産業化による零細農村生産者の生計向上プロジェクト（第2年次）』

零細農村生産者による農畜林水産物の6次産業化を本格的に進めるため、受益者である協同組合(265世帯)の組織強化や、漁業、農業・家畜と林業の各グループが開発した商品の販売、並びに地域の自然資源を適切に利用したエコ・グリーンツーリズムへの観光客の受け入れを実施。零細農村生産者の組織強化や市場での販売および旅行客へのおもてなしを通じて、受益者の生計向上と地域の活性化に寄与することができました。



### ■地球環境基金『バングラデシュ・シュンドルボンにおける自然体験プログラムの開発・実践』

世界自然遺産であるシュンドルボンの地域資源を活用した30種類の自然体験プログラムを開発しました。地域住民はガイドや安全管理の研修を重ね、インターパリターとしてプログラムを実践することで12%の月収増につながりました。コロナ禍で活動は制限されましたが、運営ガイドラインの策定や広報ツールの開発等によって運営委員会が自立して活動する基盤を整えることができ、バングラデシュ初の自然学校として環境教育・ESDの拠点となっていくことが期待されます。

## 2万本を植林！ジャカルタ湾岸でマングローブ再生活動



### ■緑の募金、経団連自然保護基金『ジャカルタ湾岸マングローブ林再生事業』

地域住民の要望に応えて、ジャカルタ湾岸でのマングローブ植林事業に取り組んでいます。近年、海岸浸食が進むジャカルタ湾北東部の保全林地域において、地域住民と協働してオオバヒルギの植林を通じて環境再生を行っています。緑の基金の助成により1万本(4Ha)、経団連自然保護基金の助成により1万本(4Ha)の植林を行い、地域の森林再生に取り組んでいます。

## 日中韓で環境教育・ESDの取り組みを推進！

### ■環境省

#### 『日中韓環境教育ネットワーク(TEEN)事業』

「2050年に向けた私たちの選択～脱炭素社会の実現のために～」をテーマにオンライン形式でシンポジウムを開催しました。当日は、日中韓の専門家及びユースから脱炭素社会の実現に向けた事例報告がありました。また、日本側プロジェクトの一環として動画シリーズ「環境教育・ESDトーク」を作りました。動画では、環境教育・ESDの分野で優れた取り組みをされている国内の研究者や実践者の方から、それぞれの理念や活動についてお話し頂いています。



## 次世代の環境保全・環境問題解決を担うリーダーを育成！

### ■経団連自然保護基金『アジア太平洋地域生物多様性保全にかかる次世代人材育成事業』

経団連自然保護基金25周年記念事業として2017年から2020年にかけて実施されたSATO YAMA UMIプロジェクトでは、ユースの海外インターン等を実施し、アジア・太平洋地域と日本での人材育成に取り組んできました。後身となる本プロジェクトでは、将来的に日本だけでなく世界各地で環境保全に取り組む人材を育てる目的として、講座を実施しました。講座では、生物多様性の概論や、企業、NGO、市民などのステークホルダーの活動を学びました。



### ■SOMPO 環境財団『NGO ラーニング・インターーンシップ・プログラム in インドネシア』

インドネシアの大学生・大学院生をインドネシアに所在する環境NGOにインターン派遣する制度です。実施3年目となる2021年度は、20名の学生が6団体で75日間のインターン活動を行いました。コロナ禍で完全オンラインによる取り組みになりましたが、参加学生は様々な環境問題を学び、各自が考える課題の解決に向けて大きな経験を積むことができました。



# GEMS

体験をベースにした科学・数学の探究によって自ら学び、考える姿勢を育てるワークショップを幼児からシニアまで幅広く展開しています。



## GEMS とは？

GEMS(ジェムズ;Great Explorations in Math and Science)は、カリフォルニア大学バークレー校の付属機関LHS(ローレンスホール科学教育研究所;Lawrence Hall of Science)で開発された、幼稚園から高校生までの子どもを対象とした科学と数学の参加体験型プログラムです。

ビニール袋の中で化学反応を起こしてみたり、巨大なシャボン玉を飛ばしてみたり、はたまた宇宙から来たという不思議な緑色の物質を調査したり……実際にからだを使った、楽しきいっぱいのアクティビティばかり！

GEMSでは子どもたちが自分の想像力と創造力を使って、自分たちで実験を企画し話し合い、結論を導き出していく。その姿は好奇心と探究心をたっぷり持った科学者そのもの。五感を使って実際に体験することで、子どもたちの豊かな学びへつなげていきます。

## ジャパン GEMS センター

ジャパンGEMSセンターは、日本におけるGEMSの拠点として、日本環境教育フォーラム内に2001年に設立されました。

GEMSプログラムの普及ならびに指導者養成、GEMSティーチャーズガイドブックの翻訳出版におけるリソースセンターとしての役割を担っています。



## GEMSの アプローチ

GEMSでは、実際にやってみた体験をもとに、その意味を考える「やってみて、見てみて→考えてみて→またやってみる」という学び

のサイクルを採用しています。まず分からぬなりにやってみて、自分で考えることで「次、こうやったらどうなるだろう？」という、新しい学びへのモチベーションが生まれるというこのモデルによって、誰も正解がわからないような複雑な社会課題や環境問題を解決するための「自立した思考力」を育てることを目指しています。また、人それぞれの学び方や考え方の違いや答えの多様性を尊重する「違いと間違いを活かしたポジティブな学びの場づくり」を大切にしています。



## 対面でも、オンラインでも、探究的に！

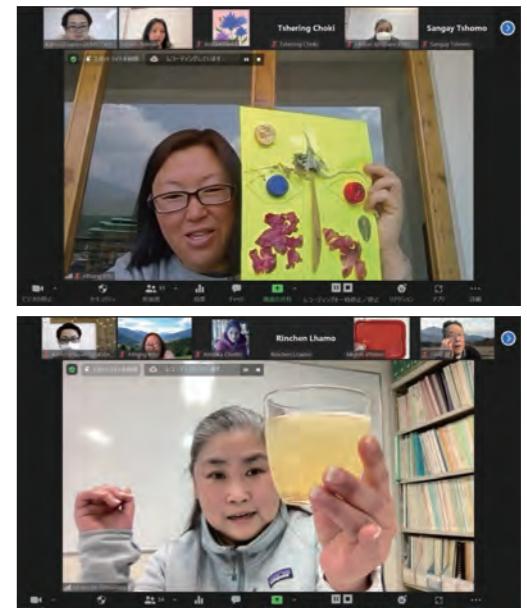


オンラインワークショップ依頼が増え、その要望に合わせてさまざまな形のワークショップにチャレンジしました。Zoomを使った双向型の中でもおうちにあるもの教材を自分たちで用意していただくもの、事前に教材のセットを送付して行うもの、YouTubeのライブ配信機能を使ったもの、教室とつないでの出前授業や、屋外からの自然風景の配信などなど、システムや機材を組み合わせて多種多様なオンラインワークショップを実現しました。

## ブータンの幼児教育者へのオンライン研修

### ■ブータン王国労働人事省 『幼稚園・保育園(ECCD)教員養成』

ブータンで幼児教育に関わる先生たちの研修をオンラインで実施しました。教育改革が進むブータンでは、特に幼児～低学年期の体験的な学びが注目されており、今回の研修でも体験的に算数を学ぶ『カエルの算数』や、サイエンスとアートの総合学習プログラム『文化遺産調査』などのGEMSプログラムをオンラインで体験していただきながら、子どもたちの好奇心を引き出したり、思考を深めたりするファシリテーションについてお伝えしました。



## 病気の子どもたちへのオンライン遠足



### ■シャイン・オン！キッズ 『重い病気と闘う子どもたちに向けたオンライン遠足』

新型コロナ感染拡大の影響を受けて病院の外に出られなくなっている病気の子どもたちに向けて、水族館や自然学校と連携してオンライン遠足を実施しました。日本一のサメの飼育種数を誇るアクアワールド茨城県大洗水族館からは、ダイナミックなサメの泳ぐ様子やエサやりを配信。また、認定NPO法人オーシャンファミリーの協力のもと、神奈川の磯からリアルな海の生きもの観察をお届けしました。

# 事業一覧

## ■企業等との協働事業

部 門	事 業 名	協 働 パ ト ナ ー
国内事業	市民のための環境公開講座	損害保険ジャパン、SOMPO環境財団
	王子の森・自然学校	王子ホールディングス
	わたしの自然観察路コンクール	富士フィルム・グリーンファンド
	100年後に生きる子どもたちに感謝される森づくり	メットライフ生命、メットライフ財団
	SAVE JAPAN プロジェクト	損害保険ジャパン、日本NPOセンター
	自然体験と連携した狩猟・ジビエ普及推進事業	大日本猟友会
	東京マラソンチャリティ事業	東京マラソン財団
	大阪マラソンチャリティ事業	大阪マラソンチャリティ事務局
	NGO ラーニング・インターンシップ・プログラム in インドネシア	SOMPO環境財団
	バングラデシュ・シュンドルボンにおける 自然体験プログラムの開発・実践	地球環境基金
海外事業	バングラデシュ・シュンドルボン地域におけるコミュニティ ベース型シードバンクの設立を通じた里山農業保全活動	地球環境日本基金
	アジア太平洋地域生物多様性保全にかかる 次世代人材育成事業	経団連自然保護基金
	ジャカルタ湾岸マングローブ林再生事業	緑の募金、経団連自然保護基金
	明電舎体験学習事業	明電舎
	「海とさかな」自由研究・作品コンクール	朝日新聞、朝日学生新聞、日本水産
	サニエルおやこネイチャー楽校	サニクリーンアカデミー
	おそうじ科学実験	サニクリーンアカデミー
	海洋プラスチックごみに関する体験学習プログラム	ジョンソン
	Earth Day 社内イベントでの環境ワークショップ事業	ラルフローレン
	イオンモールにおけるサイエンスワークショップ事業	ミクスウェル
GEMS	全漁連中堅職員研修	ビジネス・サクセストーリー
	ブータン教員養成プロジェクト	日能研
	病気の子どもたちが、いつでも・どこからでも体験的な学びにアクセスできるプラットフォームづくり事業	ベネッセこども基金

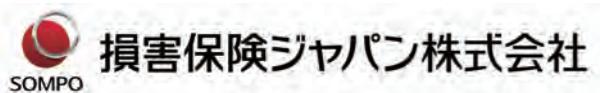
## ■自主事業

部 門	事 業 名
国内事業	清里ミーティング
	東京ネイチャーアカデミー
	環境教育ラジオ「私の本棚」
海外事業	JICA 海外青年協力隊カフェ
GEMS	GEMS リーダー養成講座
	GEMS プログラム（子ども・親子講座）
	GEMS テキスト出版販売
	教員免許状更新講習

## ■行政等との協働事業

部 門	事 業 名	協 働 パ ト ナ ー
国内事業	国立公園満喫プロジェクト人材育成支援業務	環境省、日本エコツーリズム協会
	教職員等環境教育・学習推進リーダー養成研修業務	環境省
	森里川海の恵みを次世代につなげるプログラム実施業務	環境省
	南房総の里山・里海を満喫する親子向けツアー プログラムの開発および実施事業	環境省、環境イノベーション情報機構
	環境教育等促進法施行状況調査業務	環境省
	自然公園等利用者数等集計業務	環境省
	「自然ふれあい全国ネットワーク」ホームページ運営業務	環境省
	「国立公園満喫プロジェクト」ホームページ更新等業務	環境省
	日中韓 環境教育ネットワーク (TEEN)	環境省
	日中韓 3ヵ国環境大臣会合 (TEMM) ユースフォーラム	環境省
海外事業	ファシリテーションガイドブック国際発信業務	環境省
	バングラデシュ・シュンドルボンにおける農畜林水産部門の6次 産業化による零細農村生産者の生計向上プロジェクト（第2年次）	外務省

# 企業 × JEEF —— 協働事例インタビュー



## 『木を植える人を育てたい』

佐々木 美絵 さん（損害保険ジャパン(株) CSR 室 課長）  
佐 藤 孝 治 さん((公財) SOMPO 環境財団 事務局長)

損害保険会社のおもな事業目的は、事故や災害などによって生じた損害を補償すること。その損害保険会社が、なぜ環境CSRに熱心に取り組まれているのか。1993年から継続してJEEFと協働事業を推進してこられた、損害保険ジャパン(株)・佐々木美絵 課長と(公財)SOMPO環境財団・佐藤孝治 事務局長(以下、敬称略)にインタビューさせていただきました。



佐々木さん

佐藤さん

### - どのような経緯から、環境CSRに取り組み始めたのですか。

〈佐々木〉1992年リオ・デ・ジャネイロで開催された地球サミットに当時の社長が参加し、「これからは環境の時代だ!」という認識を持ち帰って、国内の金融機関では初めて“地球環境室”という部署を作ったことが始まりです。その意図は、地球温暖化で将来、台風などの自然災害がより激しくなっていく。そうなれば、保険金支払いという形で会社の業績にも大きく影響するようになるということです。

地球サミットの翌年(1993年)、まだ環境財団は設立されていませんが、本社のCSR事業の一環として「市民のための環境公開講座」がスタートしました。JEEFさんとのお付き合いもこの年から始まっています。

近年、大きな自然災害が続いている。被害を受けられたお客様と直接接する機会を体験すると、改めて保険の大切さや環境問題への取り組みの重要性を感じるようになります。保険事業自体がCSRであるということを実感しますね。

### - 御社のCSR活動の強みや環境財団の特徴を教えていただけますか。

〈佐々木〉一番の強みは、長きにわたってNPO/NGOと

協働事業を継続実施してきたこと。そして金融機関の中では、他の会社に先駆けて環境CSRに取り組み始めたことですね。

〈佐藤〉SOMPO環境財団は、損害保険ジャパン(株)から寄付金を受けて1999年に設立されました。その目的は“木を植える人を育てたい”、つまり自分たちで木を植えるのではなく、“人を育てる”ことを軸とした『環境教育』に注力して取り組んでいこうとするものです。CSR活動における重点アプローチの1つに、“人材育成を意識したNPO/NGOなどをはじめとする様々なステークホルダーとの連携”を掲げています。「市民のための環境公開講座」はその一つの事例になります。



▲ (特別講座) JEEF 職員が講師

### - では、その「市民のための環境公開講座」の概要を教えてください。

〈佐藤〉通年講座として年9回、これらはセミナー形式です。さらに、実践的な場として特別講座を1~2回実施しています。持続可能な社会づくりにむけて、広く環境問題を捉え、無関心層、関心層、知識層など様々な人々に幅広く情報を発信して、それが行動につながるキッカケになっていくことを目指しています。また、若者にもたくさん来ていただきたいので、環境活動に関心の高い芸人さんやテレビにもよく出演されている著名な先生にゲスト講師をお願いするなど、工夫を凝らしています。26年間で400回以上のセミナーや特別講座を開催してきました。

### - これだけ長く続けてこられた秘訣を教えていただけますか。

〈佐々木〉1992年以降、歴代の経営トップがCSRや環境問題への理解、重要性を貫して持ち続けてこられたことが長く続けられた大きな要因であると思います。

〈佐藤〉それにトップが講座やイベントに参加してくれるようになると、社員も参加してみようという意識が高まりますしね。

### - 年9回の講座はどのように企画していますか。

〈佐藤〉11月に講座の最終回が終わり、すぐに反省会を開きます。その後、企画委員会をJEEFさんとCSR室、環境財団の3社で翌2月までに3回くらい実施します。次年度のテーマ、講師の選定を喧々諤々と若手メンバーが中心になって意見交換し合います。そして4月には講師依頼まで完了します。

### - 最後に、JEEFに期待していることを教えてください。

〈佐々木〉「市民のための環境公開講座」については、講師やテーマ設定の面で、JEEFさんの人脈・知見が活きてくるところです。私たち企業サイドからすると、一般の方に環境問題のどの部分を広めていくことが価値なのか、専門性を持たない企業人では分からぬところが多いです。今何が旬の話題なのか、あるいは今何を一般的の市民の方に発信していくべきテーマなのか、というアイデアはJEEFさんに頼る部分が大きいですね。そういった背景があって、この講座が成り立っていると思っています。企業がNPO/NGOと協働する意味って、そこにあるのですよね。私たち企業だけでは見つけられない社会課題を、協働することによって間接的に課題解決にアプローチができると考えています。

〈佐藤〉講座の形式や進行面の技術もJEEFさんには期待しています。特に若い方は、参加型のワークショップを求めるケースが多く、進行役のファシリテーション技術などは期待する大きなところです。

また集客面でも、JEEFさんは環境に関心のある独自の顧客リストを持っているので、そのルートでイベント情報を発信してもらうことも重要です。講師への依頼も企業からでなく、JEEFさん経由で依頼してもらったほうが何かとスムーズな事が多いためですね。



▲ (セミナー) JEEF 職員がファシリテーター

環境公開講座と並んでもう一つの柱である「CSOラーニング制度」という事業があります。

大学生・大学院生を8ヶ月間、NPO/NGOに派遣し、インターン活動していただく取り組みで約20年続けてきましたが、今年の2月からはインドネシアでも開始しました。

インドネシアをはじめ海外での活動実績が豊富で、かつ日本人スタッフが駐在しているNGO、更には日本でCSOラーニング制度を受け入れているNGOとしてJEEFさんに期待するところは大きいです。

近年、社会課題が多様化し学生にとっては興味・関心の選択肢が広がっていると思いますが、環境への関心をもっともっと喚起していかなければいけないですね。

### - ありがとうございました。

(インタビュー:2019年10月)



# 会員制度

JEEF の理念に賛同いただき、共に学び、考え、行動していく参画者を増やしていくことを目指します。会員の皆さまの力を持ち寄り、発揮していただける会員コミュニティをつくってまいります。自団体だけでは難しい複雑な課題の解決方針・方策を一緒に考えていきましょう。

会員数		※2022年3月31日現在
特別会員	10名	
正会員（団体／個人）	9団体／51名	
普通会員（団体／個人／学生）	42団体／325名／11名	
贊助会員	8社 カローラタ株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社小学館、損害保険ジャパン日本興亜株式会社、トヨタ自動車株式会社、株式会社日能研、公益財団法人ニッセイ緑の財団、株式会社博報堂	※50音順

## 普通会員

機関誌「地球のこども」や様々な情報をお届けする他JEEF主催イベントへの優待を致します。

**団体 20,000円／年**  
(入会金10,000円)  
**個人 6,000円／年**  
(入会金なし)  
**学生 3,000円／年**  
(入会金なし)

## 正会員

正会員は公益社団法人であるJEEFの法律上の社員です。年1回以上開催する社員総会において1票の議決権を持ち、JEEFの運営に直接関わります。

**団体 80,000円／年**  
(入会金20,000円)  
**個人 20,000円／年**  
(入会金10,000円)

## 贊助会員

JEEFの活動を資金面でサポートしていただく会員です。

**一口 100,000円／年**

- ※ 正会員と贊助会員は年度会費です。(いつご入会されても4月～翌3月が会費期限になります)
- ※ 団体普通会員(2万円)と贊助会員(一口10万円)は複数口の加入が可能です。
- ※ 普通会員の会費(個人のみ)は寄付金扱いとなり、税制上の優遇措置の対象となります。

## 【会員特典】

- 機関誌「地球のこども」およびメールマガジン「身近メール」をお届けします。
- 会員専用サイト「JEEF会員ページ」のアクセス権を差し上げます。
- JEEF(GEMSも含む)が実施するいくつかの事業に割引料金で参加できます。
- JEEF(GEMSも含む)で取り扱う書籍を会員価格で購入できます。



会員・寄付についての詳細は、  
<https://jeef.or.jp/joinus/>からご覧ください。



# 寄付制度

皆さまからのご寄付は、おもに以下のような取り組みに活用させていただきます。温かいご支援をお願い致します。

- 人材育成、能力開発、生計・生活環境改善支援などの推進
- 子どもたちの健全な成長を支える自然体験活動の推進
- 日常生活・社会生活を営むうえで困難や課題、心配を抱える方々に向けた環境教育プログラムの推進、自然と触れあう場の提供など

## 【活動例1】がん患者のための園芸療法

外に出られなくても、本物の植物に触ることで心と体が反応し、健康効果(自力で体調を本来の状態に近づけようとする作用)が働きます。

★「がんサポートコミュニティー」様 および「自然環境復元協会」様との共催事業です。



## 【活動例2】小学生・親子向けの自然体験プログラム

新型コロナウイルス感染症への不安、警戒によるストレスや制約の多い生活が2年を超え、子どもたちの心身の健康不安が心配されます。全国の自然学校等と協働して、子どもたちの健全な成長を支える自然体験活動を推進しています。



## 【寄付の方法・種類】

### ●1回だけ任意の金額を寄付する。

クレジットカードまたは銀行・郵便局から、いつでも好きな金額でご寄付いただけます。

### ●継続的に寄付する。

クレジットカード決済で毎月一定額をご寄付いただけます。

### ●毎月の電気料金を通じて寄付する。

JEEFは、『ハチドリ電力』の寄付先団体です。電気料金の1%がJEEFに寄付されます。

『ハチドリ電力』のホームページから電力会社をお切替えください。

### ●「想うPROJECT」を通じて寄付する。

エシカルパソコン“ZERO PC”の購入金額の3%がJEEFに寄付されます。

### ●スポーツチャリティを通じて寄付する。

一定額以上(大会ごとに異なります)の寄付をすることで、"チャリティランナー"としてマラソン大会に出走することができます。

## 【寄付特典】

- JEEFは内閣府所管の公益法人です。JEEFへのご寄付は、確定申告をいただくことによって、税制上の優遇措置を受けることができます。
- 2,000円以上のご寄付には『SDGsピンバッジ』を、5,000円以上のご寄付にSDGsピンバッジのほか、JEEFオリジナルの『野帳(フィールドノート)』をお贈りします。



**【総 評】** 2021年度は、前年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大により対面での事業に制限を受けました。一方で、オンラインに切り替えて実施する等の工夫により、事業の中止を最小限の影響に留めることができました。また、企業や行政等との協働による新規事業も始まりました。これにより財務基盤の安定化が図られ、黒字を達成することができました。

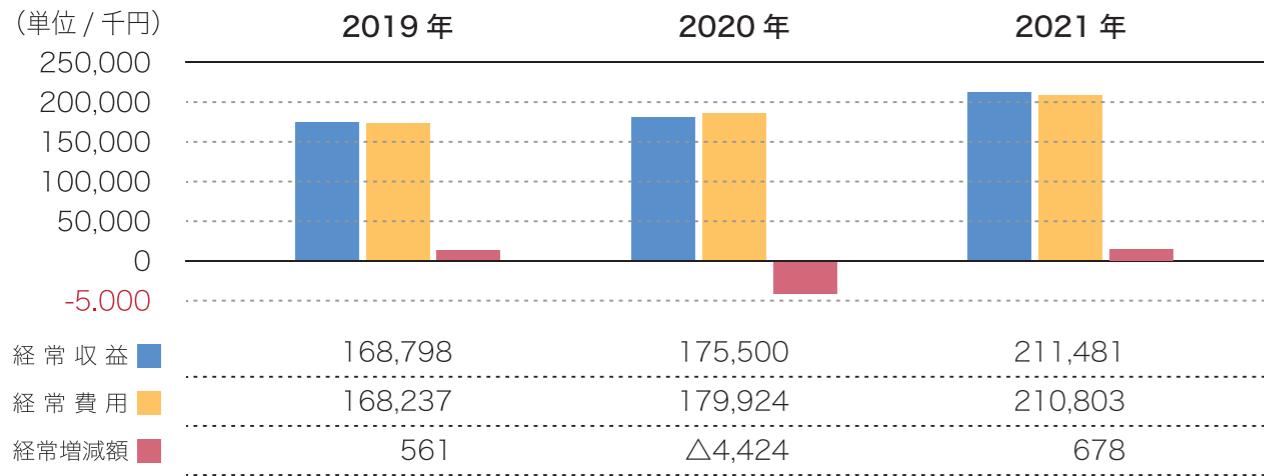
2022年度はJEEF設立から30年目を迎えます。我々が暮らす地球の限界は既に超えており、SDGsの最終年である2030年までの残り8年間はサステナブルな未来へと舵を切る最後のチャンスとなります。この最後のチャンスを逃さぬよう、1) これからの環境教育の提案 2) 国内・海外における環境教育関係者・ネットワークとの連携強化 3) 財務基盤のさらなる安定化を進めてまいります。

事務局長 加藤 超大

※2022年6月24日現在

会 長	岡 島 成 行	学校法人青森山田学園 理事長
理 事 長	阿 部 治	立教大学 名誉教授
専務理事	高 野 孝 子	特定非営利活動法人 ECOPLUS 代表理事
常務理事	辻 英 之	特定非営利活動法人グリーンウッド自然体験教育センター 代表理事
理 事	安 西 英 明	公益財団法人日本野鳥の会 参与
	菅 山 明 美	株式会社ハッピーエンジン 代表取締役
	鈴 木 和 信	日本大学 国際関係学部 教授
	高 木 幹 夫	株式会社日能研 代表取締役
	田 中 泰	特定非営利活動法人白川郷自然共生フォーラム 理事長
	長 沢 裕	タレント
	西 村 仁 志	広島修道大学 人間環境学部 教授
	藤 田 香	富山大学 経済学部 客員教授
	古 屋 悠	株式会社イキモノ 代表取締役
	山 田 健	サントリーホールディングス株式会社 サステナビリティ 経営推進本部 チーフスペシャリスト
監 事	松 田 勉	松田勉税理士事務所 税理士／元麹町税務署長
	渡 辺 綱 男	一般財団法人自然環境研究センター 上席研究員

## 【経 常 収 支】



## 【経常収益の内訳】

